

奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶に関係する史跡(6) —奈良市に存在する茶産地:田原地域, 月ヶ瀬地域—

About the Tea-related Historical Sites Existing near Nara Saho College Part 6-Tea Production Center Existing in Nara City :Tawara, Tsukigase-

寺田 孝重
TERADA Takashige

キーワード:茶産地, 奈良市, 田原地域, 月ヶ瀬地域

Key Words: Tea Production Center, Nara City, Tawara Area, Tsukigase Area

1. はじめに

本学が位置する奈良市地域は, 日本の文化発祥地であり, 文化遺跡が多数存在していることは, 周知の事実である. その中において, 本研究紀要において5回に渡り特に茶道や茶業に関連した史跡を紹介してきた^{1) 2) 3) 4) 5)}.

本稿からは奈良市域に存在する茶の産地について紹介する.

2. 奈良県産のお茶「大和茶」

奈良県の茶生産量は, 生葉 7130 トン荒茶 1720 トン (平成 28 年) と全国 7 位の生産量で, 平成 17 年に県内一の茶産地である月ヶ瀬地域が奈良市と合併したことにより, その生産地のほとんどが奈良市内となった. 2014 年に設立された奈良市奈良ブランド推進課においても奈良産のお茶「大和茶」を奈良ブランドとして知名度を上げる様々な取り組みをしている. 一般的に良質な茶の栽培適地としては, 標高で 200~500m にわたる地域, 年平均気温が 13~15℃, 年間降水量が 1500mm 程度の山間冷地で日照時間も短いところが条件とされる. 大和茶の生産地である奈良県東部の山間地域, 主に大和高原一帯はこの条件に当てはまり, 標高 200~500m に位置し, 年平均気温は約 14℃で寒暖の差が大きく, 年間降水量は約 1400 mm の気候である. 高原の傾斜地であるため日照時間が短く, 気温も冷涼であるため茶の生育が遅く, 良質な茶葉で香気の豊かな茶の生産に適している.

3. 奈良市域の茶業について

明治 31 年 (1898) の市制実施当時の奈良市域は, 図 1 に黒く示した旧奈良町である. ここに 7 度の編入により多数の町村合併が行われ, 現在の奈良市域ができあがった.^{注 1)}

奈良は歴史的に見ても古くから茶の生産に取り組んできており, 江戸初期より各種の国郷帳^{注 2)}に茶年貢や茶の生産が散見される. 奈良県の茶生産が極大期を迎えた明治 14 年 (1881) に, 内務省の指示により, 町村ごとに貢租・

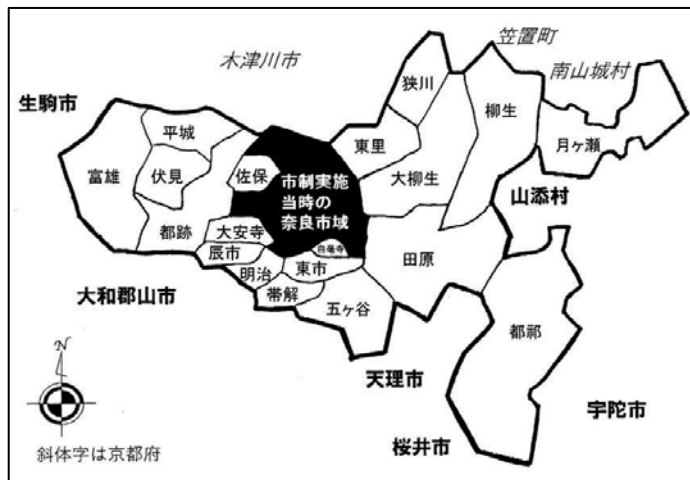


図 1 現在の奈良市域と市制実施当時の奈良市⁶⁾

戸数・寺社・物産などを調査した『大和国町村誌集』^{注 3)}には, 明治期の旧村名で茶の生産地と生産量が記録されている. 筆者は, 『大和国町村誌集』を中心に「寛永期の国郷帳」4 点や江戸時代に他に見られる茶に関する記載等をその他として記載し, これに明治 31 年 (1898)

に奈良市制が施行される以前の旧郡名と旧町村名を併記し、表とした(付表1)。なお「寛永期の国郷帳」4点は寛永7~8年(1630~1631)の状況を記したと思われる『寛永二年 大和一国高覚帳』や寛永10~17年(1613~1640)の状況を記したと思われる『大和国高帳并御知行付』と『寛永一六年卯年大和国郷改帳』, 寛永11年~慶安3年(1634~1650)の状況を記したと思われる『寛文元年 大和国郷帳』をさす。

この付表にあるように、現在の奈良市域には江戸時代初期から茶園が成立しており、明治期には非常に多くの地域で茶生産があったことがわかる。以前に紹介した²⁾ように、今では奈良市の中心部となる、手貝町、般若寺町には鎌倉、室町期にさかのぼる茶産地があり、西大寺町には西大寺の境内に叡尊ゆかりの茶園がこれも鎌倉期から存在している。また此の痕跡が、川上町、法華寺町などにも認められ、奈良市の広範な地域に茶業が存在するのは歴史的必然と言える。

次章では歴史的資料もあわせながら現在の奈良市内の茶産地である田原地区と月ヶ瀬地区を紹介する。

4. 紹介

4-1 田原地域

本学では、地域社会の発展を担う専門職養成と地域の生涯学習の拠点となることを掲げ近隣地域における社会活動や地域貢献活動を行っている。平成29年度は、1回生全員が奈良市東部の田原地域での体験活動に取り組み、農業体験(田植え、茶摘み)を行った(図2、図3)。

この地域は図4のように、国中盆地(奈良盆地)から見ると東の壁のように切り立っている山地になるため、昔から「東山中、東山内」と呼ばれ、柳生地区から三輪山、初瀬地区まで連なり、数多くの小盆地を含みながら、隣の甲賀、伊賀地域に広がる山地の、ほぼ北端に当たっている。旧田原村は、昭和32年(1957)に柳生・大柳生・東里・狭川の各村と同時に奈良市と合併した。この地域は江戸期の15ヵ村で構成され、明治期にはすべての村落で茶が生産されている(表1)。

茶生産としては、村名は不明であるが『多聞院日記』^{注4)}の天文11年(1542)閏三月十九日

表1 田原地域(付表1より抜粋)

| 市制施行前の旧郡町村名(1898) | 大和国町村誌集(1881) | | 寛永期国郷帳(1630-1650) | その他の記載 |
|-------------------|---------------|---------|-------------------|--------|
| | 旧村名 | 茶の産出量 | | |
| 添上郡 田原村 | 沓掛 | 670貫 | | |
| | 日笠 | 3000斤 | | |
| | 此瀬 | 3781斤 | | |
| | 須山 | 3500斤 | | |
| | 誓多林 | 2755斤 | 茶年貢 | 文禄検地 |
| | 和田 | 5000斤 | | |
| | 横田 | 2800斤 | | |
| | 中之庄 | 5562斤 | | 1700茶園 |
| | 大野 | 1250斤 | | 1677茶園 |
| | 中貫 | 470斤 | | |
| | 杣川 | 1560斤 | | |
| | 南田原 | 1350斤 | | |
| | 茗荷 | 1340貫 | | |
| | 矢田原 | 5768、5貫 | | |
| 長谷 | 1500斤 | | | |



図2 田原地区茶園写真



図3 学生たちによる茶摘みの様子



図4 田原地域の地図

に「茶二斤五十五文ツツニ買了、タワラ茶也」⁷⁾の記載がある。江戸期においては、「誓多林村」の茶年貢が文禄検地（延宝検地に古検として記載）や国郷帳に見られるほか、田原地区の藤堂藩独礼無足人（藤堂藩における上級郷士の名称）であった山本平左衛門が記した『山本平左衛門日記』^{注5)}には、延宝5年（1677）6月20日の条に「茶摘初」⁸⁾との記述があり、貞享3年（1686）5月10日の条には「自昨日茶縁（園）之中修理初之」⁹⁾など、以降享保3年（1718）まで茶摘みや茶生産を示す記述が散見され、この時期頃より、茶生産が地域内に拡大を始め、その結果が明治期の生産量につながったものと考えられる。また、大正8年（1919）より建設が始まった山添村小倉から都祁・田原・京終を結んだ貨物運搬用ロープウェイ「奈良安全索道」^{注6)}によって、茶をはじめとする農産物の搬出量が増大し、茶業の発展があったと思われる。なお、奈良県経済連が茶広域流通センターを開設した昭和45年（1970）の経済連調査では、田原農協の茶生産量は339.7tで月ヶ瀬に次いで2位である。

筆者が昭和47年（1972）に奈良県農業試験場茶業分場（現 奈良県大和茶研究センター）に赴任した時、この地域の煎茶について「香 月ヶ瀬、味 田原」と田原地域の古老が言い表したのを聞いた。田原地域で生産される茶は、濃厚な滋味が特色で、これは地域の土質が粘土系で、肥料が良く効くためと言われている。

4-2 月ヶ瀬地域

前述した「東山中」の内の東北端に当たり、山城、近江国と境を接しているのが、月ヶ瀬地域である。ごく最近の、平成17年（2005）に都祁村と同時に奈良市と合併した。この時、山添村が合併しなかったため、奈良市域としては、柳生地区とはつながっているが、田原地域とは離れた形になっている（図5）。

表2で、添上郡月ヶ瀬村^{注7)} 嵩が山辺郡波多野村とあるのは、明治30年（1898）に「嵩村」が、「波多野村」から「月ヶ瀬村」に編入したためで、『大和国町村誌集』はそれ以前に出版され、この事が反映されていないためである。

月ヶ瀬は梅林で有名であり、江戸時代から文人墨客が訪れ、漢詩などに詠われている^{注8)}。

この地域は表2のように、寛永期の国郷帳には茶生産は見られていないが、延宝6年（1678）には「茶園売買文書」^{注9)}などがあり、田原地域

表2 月ヶ瀬地域（付表1より抜粋）

| 市制施行前の旧郡町村名（1898） | 大和国町村誌集（1881） | | 寛永期国郷帳（1630-1650） | その他の記載 |
|-------------------|---------------|-------|-------------------|--------|
| | 旧村名 | 茶の産出量 | | |
| 添上郡 月ヶ瀬村 | 桃香野 | 7500斤 | | |
| | つきせ月ヶ瀬 | 5000斤 | | |
| | 長引 | 9030斤 | | |
| | 石打 | 8960斤 | | 1701茶園 |
| | 尾山 | 8415斤 | | 1678茶園 |
| 山辺郡 波多野村 | だけ嵩 | 1600斤 | | |

石高や小物成を記したものである。江戸幕府の命で、慶長・正保・元禄・天保の4回、全国規模で国ごとの地図と郷帳が作成されたが、必要に応じて各地での作成・転写が行われている。基本的には石高の記載のみであるが、この4点のように小物成の種類を併記するものもある。

注3)『大和国町村誌集』は、明治14年(1881)、内務省(明治～昭和戦前期の地方行政や警察など対民衆行政一般を所管した中央行政官庁)の指示により、県下を町村ごとに貢租・戸数・寺社・物産など二十数項目にわたり調査した資料。国会図書館デジタルライブラリーにて閲覧できる。

注4)興福寺の塔頭、多聞院の院主の長実房英俊らの日記。文明10年(1478)～元和4年(1618)までのもの。戦国時代から近世初期の社会や文化を知る貴重な史料。翻刻本が国立国会図書館デジタルコレクションにて公開されている。

注5)田原郷(現奈良市)に住んでいた藤堂藩の無足人(上級郷士)、山本平左衛門忠辰が延宝4年(1676)から享保5年(1720)まで書いた日記。そのうち16冊が現存する。内容は天気、親族のこと、郷中近郷の農事や歳事についてや忠辰の親族がいた藤堂藩・春日社・法隆寺・東大寺の動向だけではなく、見物に出かけた薪猿楽やおん祭のことなども記されている。

注6)大正10年(1919)に作られた京終駅から田原を經由して針までの物資運搬用ロープウェイである。大正11年(1922)に延長され、田原駅、山田駅、針駅を經由して山添村小倉駅までの16.9kmを結んでいた。昭和27年に廃止されるまで山間部で作られる凍り豆腐や材木、炭などを運んでいた。

注7)現在の奈良市月ヶ瀬は、奈良市に編入する以前は添上郡^{つきがせむら}月ヶ瀬村であるが、月ヶ瀬村となったのは昭和43年(1968)である。それ以前は^{つきせ}月ヶ瀬村であった同村は明治22年(1889)に尾山村・石打村・長引村・桃香野村・月ヶ瀬村の区域を合併し月ヶ瀬村を発足させているので、明治22年以前の地区名として月ヶ瀬がある。梅の名所として名高い「月ヶ瀬」があるため月ヶ瀬と呼ばれることが多く名称変更した¹¹⁾。

注8)江戸末期には漢学者の齋藤拙堂^{せつどう}(1797-1865)、頼山陽^{らい}(1781-1832)ら多くの文人が訪れている。拙堂の『月ヶ瀬記勝』や山陽の「月ヶ瀬梅花の勝、六絶句」によって「月ヶ瀬梅溪」が広く世に知られることとなった。

注9)『名勝月ヶ瀬』には尾山の松本家に残る田地売券に「ヲヤマタキノチャノキバタケ」の記載がある¹¹⁾。

引用・参考文献

- 1) 寺田孝重：「奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶関係の史跡について(1)」、『奈良佐保短期大学研究紀要』, 20, pp.95-99 (2012)
- 2) 寺田孝重：「奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶関係の史跡について(2)」、『奈良佐保短期大学研究紀要』, 21, pp.73-82 (2013)
- 3) 寺田孝重：「奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶関係の史跡について(3)」、『奈良佐保短期大学研究紀要』, 22, pp. 37-42 (2014)
- 4) 寺田孝重：「奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶関係の史跡について(4)」、『奈良佐保短期大学研究紀要』, 23, pp. 17-24 (2015)
- 5) 寺田孝重：「奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶関係の史跡について(5)」、『奈良佐保短期大学研究紀要』, 24, pp. 59-69 (2016)
- 6) 奈良市議会事務局議事調査課編：「市制概要平成29年度(2017年度)」, 奈良市議会事務局, p.2 (2017) 周辺地域の地名を加筆
- 7) 英俊著；辻善之助編：『多聞院日記』第1巻, 角川書店, p.276 (1967)
- 8) 山本平左衛門著；平山敏治郎校訂編集：「大和国無足人日記：山本平左衛門日並記 上巻(清文堂史料叢書 第21刊)」, 清文堂出版, p.65 (1988)

- 9) 山本平左衛門著;平山敏治郎校訂編集:大和国無足人日記:山本平左衛門日記 上巻(清文堂史料叢書 第21刊),清文堂出版,p.144(1988)
- 10) 6) 市域の変遷をもとに作成
- 11) 月ヶ瀬村史編集室編:「月ヶ瀬村史」,p.753(1990)
- 12) 木村修一:「第三章月ヶ瀬村の歴史 二、近世の月ヶ瀬」,『名勝月ヶ瀬』,p.201(1957)
- 13) 川井景一選編:「大和國町村誌集」,中尾藤三郎(1891)
- 14) 月ヶ瀬村史編集室編:「月ヶ瀬村史」,月ヶ瀬村(1990)
- 15) 梅溪史料編集室編:「香世界懐古:財団法人月ヶ瀬梅溪保勝会創立百周年記念誌」,月ヶ瀬梅溪保勝会(1999)
- 16) 秋永政孝:「大和国の村高帳について」,『奈良文化論叢』,pp.969-979(1967)
- 17) 寺田孝重:「江戸時代前期における奈良県茶業の地域分布」,『農業史研究』,27,pp.35-49(1994)
- 18) 寺田孝重:「奈良県における茶業発達過程の研究」,『奈良県農試特研報』,報告通号特別報告,p.155(1995)
- 19)「奈良安全索道跡」:針テラス情報館,<http://www.hariinfo.jp/shop/spot/2827.html>(2017.10.30)
- 20) 奈良市史編集審議会編:「奈良市史地理編」p.127(1970)
- 21) 永田光男:奈良点描2,清文堂出版(1983)
- 22) 国土地理院:「電子国土基本図」,<http://maps.gsi.go.jp/#16/34.599382/135.828824/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0l0u0f0>をもとに作成
- 23) 奈良市ならブランド推進課編:「田原散策」,<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1460947350637/files/tawarasansaku.pdf>(2017.10.30)
- 24) 元興寺仏教民俗資料研究所:「大慈仙の古文書」,『大慈仙民俗資料調査』,p.20(1974)
- 25) 名勝月ヶ瀬学術調査団編:『名勝月ヶ瀬』,名勝月ヶ瀬編集委員会(1957)

付表1 現在の奈良市に含まれる地域における1881年以前の茶産地の動向

| 市制施行前(1898年) | | 大和国町村誌集(1881年作成) | | 寛永期の国郷帳 (1630-1650年) | その他の記載 |
|--------------|------|------------------|--------|-------------------------|----------|
| 旧郡名 | 旧町村名 | 旧村名 | 茶の産出量 | | |
| 添上 | 奈良町 | 奈良坂 | | 茶年貢 | 元和小物成帳*1 |
| | | 般若寺 | 2300斤 | | 1636茶園*2 |
| | | 川上 | 50貫 | 茶年貢 | |
| | | 油坂 | | 茶年貢 | |
| | 佐保村 | 半田開 | 500斤 | | |
| | | 法蓮 | | 茶年貢 | |
| | | 法華寺 | 3000斤 | 茶年貢 | |
| | 辰市村 | 東九條 | 250斤 | | |
| | 明治村 | 北之庄 | 5貫300目 | | |
| | | 北永井 | 1000斤 | | |
| | 東市村 | 白毫寺 | 530斤 | | |
| | | 鹿野園 | 200貫 | | |
| | | 鉢伏 | 7貫 | | |
| | | 古市 | 17500斤 | | |
| | | 横井 | 95貫 | | |
| | | 藤原 | 250貫 | | |
| | | 八島 | 700貫 | | |
| | | 今市 | 660斤 | | |
| | 帯解村 | 山 | 250貫 | | |
| | | 窪ノ庄 | 10000斤 | | |
| | | 田中 | 5625斤 | | |
| | 五ヶ谷村 | 菩提山 | 2000斤 | | |
| | | 高樋 | 200斤 | | |
| | | 中畑 | 1500斤 | | |
| | | 興隆寺 | 100斤 | | |
| | | 虚空蔵 | 100斤 | | |

| 市制施行前 (1898 年) | | 大和国町村誌集(1881 年作成) | | 寛永期の国郷帳 (1630-1650 年) | その他の記載 | |
|----------------|------|-------------------|----------|--------------------------|-----------|------------|
| 旧郡名 | 旧町村名 | 旧村名 | 茶の産出量 | | | |
| 添上 | 狭川村 | 広岡 | 400 斤 | | | |
| | | 下狭川 | 5000 斤 | | | |
| | | 西 | 500 斤 | | | |
| | | 東 | 340 斤 | | | |
| | 東里村 | 中ノ川 | 250 貫 | | | |
| | | 鳴川 | 600 斤 | 茶年貢 | 元和小物成帳*1 | |
| | | 法用 | 50 斤 | 茶年貢 | | |
| | | 南ノ庄 | 1300 斤 | | | |
| | | 北 | 1500 斤 | | | |
| | | 須川 | 2000 斤 | 茶年貢 | | |
| | | 園田 | 50 斤 | | | |
| | | 平清水 | 600 斤 | | | |
| | 大柳生村 | 阪原 | 9300 斤 | | | |
| | | 大慈仙 | 1950 斤 | | | 1713 茶年貢*3 |
| | | 忍辱山 | 2580 斤 | | | |
| | | 大柳生 | 600 斤 | | | |
| | 柳生村 | 大平尾 | 500 貫 | | | |
| | | 柳生下 | 3125 斤 | | | |
| | | 柳生 | 4130 斤 | | | |
| | | 大保 | 4000 斤 | | | |
| | | 丹生 | 18438 斤 | | | |
| | | 北野山 | 1650 斤 | | | |
| | | 邑地 | 5000 斤 | | | |
| | 月瀬村 | 興ヶ原 | 2500 斤 | | | |
| | | 桃香野 | 7500 斤 | | | |
| | | 月瀬 | 5000 斤 | | | |
| | | 長引 | 9030 斤 | | | |
| | | 石打 | 8960 斤 | | | 1701 茶園*4 |
| | 田原村 | 尾山 | 8415 斤 | | | 1678 茶園*5 |
| | | 沓掛 | 670 貫 | | | |
| | | 日笠 | 3000 斤 | | | |
| | | 此瀬 | 3781 斤 | | | |
| | | 須山 | 3500 斤 | | | |
| 誓多林 | | 2755 斤 | 茶年貢 | 文禄検地*6 | | |
| 和田 | | 5000 斤 | | | | |
| 横田 | | 2800 斤 | | | | |
| 中之庄 | | 5562 斤 | | | 1700 茶園*7 | |
| 大野 | | 1250 斤 | | | 1677 茶園*7 | |
| 中貫 | | 470 斤 | | | | |
| 杣川 | | 1560 斤 | | | | |
| 南田原 | | 1350 斤 | | | | |
| 茗荷 | | 1340 貫 | | | | |
| 添下 | 平城村 | 矢田原 | 5768、5 貫 | | | |
| | | 長谷 | 1500 斤 | | | |
| | | 押熊 | 25 貫 | 茶年貢 | | |
| | | 中山 | 200 斤 | | | |
| | 都跡村 | 秋篠 | 1600 斤 | 茶年貢 | | |
| | | 山陵 | 2000 斤 | | | |
| | | 佐紀 | 147 本 | | | |
| | | 尼ヶ辻 | 40 貫 | | | |
| | | 五條 | 350 斤 | 茶年貢 | | |
| | 伏見村 | 六條 | 250 斤 | | | |
| | | 砂 | 400 斤 | | | |
| | | 七條 | 527 斤 | | | |
| | | 西大寺 | 100 貫 | 茶年貢 | | |
| | 富雄村 | 菅原 | | 茶年貢 | | |
| | | 宝来 | 100 貫 | | | |
| | | 平松 | 250 斤 | 茶年貢 | | |
| | | 二名 | | 茶年貢 | | |

| 市制施行前（1898年） | | 大和国町村誌集（1881年作成） | | 寛永期の国郷帳 （1630-1650年） | その他の記載 |
|--------------|--------|------------------|---------|-------------------------|--------|
| 旧郡名 | 旧町村名 | 旧村名 | | | |
| 山辺 | 富雄村 | 三碓 | 27 貫 | 茶年貢 | |
| | | 中 | 120 斤 | 茶年貢 | |
| | | 大和田 | 130 斤 | | |
| | | 石木 | 150 斤 | | |
| | 波多野村 | 嵩 | 1600 斤 | | |
| | 針ヶ別所村 | 上深川 | 3125 斤 | | |
| | | 下深川 | 14375 斤 | | |
| | | 荻 | 2500 斤 | | |
| | | 馬場 | 9500 斤 | | |
| | | 針ヶ別所 | 7780 斤 | 山年貢 | |
| | | 小倉 | 1000 斤 | | |
| | 都介野村 | 白石 | 1000 斤 | | |
| | | 南之庄 | | | 文禄検地 |
| | | 吐山 | 3750 斤 | | |
| | | 相河 | 100 斤 | | 文禄検地 |
| | | 小山戸 | 1150 斤 | | |
| | | 甲岡 | 25 貫 | | |
| 友田 | | 150 貫 | | 文禄検地 | |
| 針 | 6520 斤 | | | | |

1 貫＝約 3.75kg, 1 斤＝約 600g

*1 元和小物成帳は、元和元年（1615）作成の郡山藩小物成帳である。

*2 大日本仏教全書

*3 大慈仙の古文書

*4 石打村文書

*5 名勝月ヶ瀬

*6 文禄検地は、本帳及び延宝検地における古検記事を含む。

*7 山本平左衛門日並記